

有識者会議の全体スケジュール

（食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理）

■ 調査の目的

- 「**日本型食生活**」とは、**昭和50年代ごろの食事**のことであり、**ごはんを主食としながら、主菜・副菜に加え、適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた食事を指す（農林水産省HP「日本型食生活のすすめ」）**
- 「日本型食生活」の減少を含め、現状の食事のバランスは、理想的な形と比較するとくずれている状況である。
- このバランスのくずれは、**社会構造の変化にともなうライフスタイルの変化が背景となり、食事状況・食事内容が変化したこと**に起因しているものと考えられる。
- 本調査においては、**現在までの消費者の食生活、消費動向の変化を、公表データ及びアンケート調査により実態として把握**したうえで、今後の社会構造等の変化から、将来の食料消費の将来像を予測する。
- 上記を踏まえ、望ましい食料消費のための課題と解決策を整理し、解決策が実行可能なものであるかの検証を行う。

Step1	Step2	Step3	Step4
食生活や食料消費の実態の把握 (5月:第1回検討会)	食生活や食料消費の将来予測の検討 (7月:第2回検討会)	食生活のバランスの向上のための施策の検討 (12月:第3回検討会)	施策の実行可能性の検証 (2月:第4回検討会)
統計データ及び消費者へのアンケート調査により、実態を把握する。	Step1の結果に基づく将来予測の検討	Step2の結果に基づく施策の検討	施策の実行可能性の検証
■ 公表データ（国勢調査、国民健康栄養調査等）報告 ■ 生活者アンケート調査の設計の検討 ■ 将来予測の分析方針の検討	■ 食生活や食料消費の実態・予測調査・分析報告 ■ 調査・分析を踏まえた課題整理（中間とりまとめ）	■ 食生活や食料消費の実態・予測調査・分析報告（最終） ■ 調査・分析を踏まえた課題整理及び推進策の検討	■ 調査・分析を踏まえた課題整理及び推進策の提言（最終とりまとめ）

有識者会議の全体スケジュール

(教育ファーム等体験活動の国産需要拡大のための効果の検証について)

■ 調査の目的

- 食と農林水産業への理解を醸成するため、食料の生産から消費にわたる各段階で実施されている農林漁業体験活動、農産加工体験活動等の食育活動について、国内農林水産物の需要拡大への貢献の程度を調査・分析し、体験活動等の内容と効果との関係を検証する。

Step1	Step2	Step3	Step4
調査設計の検討 (5月:第1回検討会)	調査状況の報告 (7月:第2回検討会)	調査状況の報告 (12月:第3回検討会)	最終とりまとめ (2月:第4回検討会)
教育ファーム等体験活動の参加者、および体験活動の非参加者に対するアンケート調査の設計 ■ 調査設計、設問案 ■ 調査対象	調査の進捗状況の報告 ■ 教育ファームに協力を依頼して実施する、経験者向けアンケートの実施状況（発送状況、回収見込み票数等）	調査の分析結果（速報）の報告 ■ 経験者向けアンケート、一般層向けアンケートの比較分析による効果検証の結果（速報）報告	効果の検証（最終とりまとめ） ■ 最終結果報告

有識者会議の全体スケジュール

(地域の伝統的な食文化の保護・継承手法の実態調査及び「手引き」の作成方針について)

■ 調査の目的

- 地域の伝統的な食文化の保護・継承手法の実態調査及び有識者による食育施策の検討の結果を踏まえ、効果的な手法を整理した推進指針をとりまとめ、地域で食文化の保護・継承に向けた食育活動を推進する際の手引きとして活用できるガイドブックを作成する。

Step1	Step2	Step3	Step4
調査設計の検討 (5月:第1回検討会)	調査状況の報告 (7月:第2回検討会)	調査状況の報告 (12月:第3回検討会)	手引きの最終確認 (2月:第4回検討会)
手引きの作成方針の検討	手引きの進捗状況の報告	現地調査報告、 手引き(案)の検討	手引きの最終確認
■ 手引きの骨子案 ■ 調査対象	■ 調査対象等、決定事項 について報告	■ 現地調査の結果につ いて報告 ■ 現地調査結果を踏ま えた手引き(案)につ いて検討	■ 中間とりまとめにお ける議論を踏まえて 修正した手引きの最 終確認